

# 月刊 工連 ニュース

OKINAWA INDUSTRIAL FEDERATION NEWS



沖縄県産品マーク

「心」と「技術」を込めた沖縄のモノづくり

- ボイスシリーズ 「莫如樹人」  
人生の大計は人材を養成するにあり(管子より)
- 「ちばりよ～県産品」(有)うっちゃん沖縄
- 「元気カンパニー」(株)青い海
- 沖縄県地産地消シンポジウム2015

2015  
**2**月号  
Vol.603

郷土の資源で郷土をつくる



# 琉球セメント

〒901-2123 浦添市西洲2丁目2番地2

TEL098-870-1080(代表)

<http://www.ryukyucement.co.jp/>



## 株式会社 紅濱

〒901-2123 浦添市西洲2丁目2番地2

TEL098-870-1150 FAX098-870-1079

<http://www.benihama.jp/>

contents

- 2p ▶ voice vol.104  
「莫如樹人」  
人生の大計は人材を養成するにあり(管子より)  
公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団  
理事長 大城 浩
- 3p ▶ ちばりよ〜県産品  
健康への思い次世代に繋ぐ  
有限会社 うっちゃん沖縄
- 4・5p ▶ キラリ! 元気カンパニー「沖縄の北極星 ニヌファブシ」  
伝統ある沖縄のシママースを世界へ  
株式会社 青い海
- 6p ▶ 新うちな〜むん紹介  
昔懐かしい祖母の手作り味噌次代へ  
久米島みそ食品
- 7p ▶ 平成26年度  
産総研本格研究ワークショップ in 沖縄  
(独)産業技術総合研究所
- 8・9p ▶ 沖縄県地産地消シンポジウム2015  
沖縄県農林水産部流通・加工推進課
- 10p ▶ CO<sub>2</sub>排出権のもうけ話にはご用心!  
沖縄総合事務局経済産業部
- 11p ▶ 琉球大学工学部後援会からのお知らせ  
キャリア形成支援セミナー開催報告
- 12p ▶ 沖縄職業能力開発大学校  
人材育成支援のご案内
- 13p ▶ 沖縄高専だより  
平成26年度  
琉球大学工学部・沖縄高専学生  
研究発表交流会を開催しました  
平成26年度 採用教員紹介
- 14p ▶ 工業技術センターだより  
海の微生物のちから  
〜ぼくたちはいいモノを作ってます〜
- 15p ▶ 「オグレスビー氏工業功労者賞」  
候補者の募集について
- 16p ▶ トピックス  
地域創生総合研究棟オープン  
会員募集のご案内  
会員の皆様へ

2015 JANUARY 1 工連日誌

5日(月) 執行部年始挨拶廻り  
●時間/13:00~15:00 ●場所/国・県・マスコミ等12カ所

7日(水) 1月定例執行部会  
●時間/12:00~13:30 ●場所/工連会議室

22日(木) 工連青年部平成26年度第3回常任委員会  
●時間/16:00~17:00 ●場所/工連会議室

29日(木) 沖縄の産業まつり屋内展の閉館時間に関する検討委員会  
●時間/14:00~15:30 ●場所/工連会議室

特許等取得活用支援事業

# 知財総合支援窓口

中小企業など知的財産の有効活用をアドバイスします。

## ワンストップサービス

秘密厳守

相談無料

- 知財専門家が窓口常駐
- 知財専門家を派遣
- 知財ニーズの発掘
- 知財に関する支援策の紹介
- インターネット出願を支援

個別対応のため予約が必要です



0570-082100 (有料)

窓口運営時間・・・8:30~17:15(月~金) ※窓口支援担当者が常駐しています。

※電話、インターネットでお申込ください。

※ご相談頂いた内容は守秘義務により保護されます。

■内閣府沖縄総合事務局委託事業 /

実施：一般社団法人沖縄県発明協会

☎098-921-2666

公益社団法人沖縄県工業連合会は「沖縄の産業まつり」や「県産品奨励月間」などの活動を通して、沖縄経済の自立化を目指しています。

●工連ニュースへのご意見ご要望をお待ちしております。Eメールでもご参加ください。

E-mail/info@okikouren.or.jp ホームページ/http://www.okikouren.or.jp

発行所 / 公益社団法人 沖縄県工業連合会

那覇市字小塚1831-1 沖縄産業支援センター6F

電話(098)859-6191 FAX(098)859-6193

編集・印刷 / 有限会社サン印刷 電話(098)889-3679

## 「莫如樹人」 人生の大計は人材を養成するにあり(管子より)



公益財団法人

沖縄県国際交流・人材育成財団

理事長 大城 浩

沖縄県工業連合会会員の皆様におかれましては、「沖縄におけるものづくり産業の育成と振興を図ることによって地域経済発展と県民生活の向上に寄与する」ことを目的に日頃から企業経営にご尽力頂いていることに対して心から敬意を表します。特に「県産品奨励事業」「沖縄の産業まつり」を柱とした各種事業の展開、人材育成事業では「新入社員研修セミナー」「学校と産業界の交流事業」、技術支援では「県工業技術センターとの意見交換」等を通して目的の具現化に邁進していることに対して改めて感謝申し上げます。

特に当財団との関わりにおいては、沖縄県の産業発展に大きく貢献された故サムエル・オグレスビー氏の功績を記念して設立された「オグレス

ビー氏奨学金制度」があり、次代を担う工業人育成を目的に沖縄県の高等学校工業関係学科に在学中の生徒を対象に毎年奨学金が交付され、同財団で交付式が執り行われています。心身健全、志操堅固、学業優秀で経済的に学資の支出が困難な学生に学資の一部を支給するものであり、昭和50年度(1975)から平成26年度(2014)までに同制度により奨学生として採用された生徒は92名のほり、卒業後は沖縄県の貴重な人材として各分野で活躍しています。

同財団は「莫如樹人」(人生の大計は人材を養成するにあり。管子より)の経営理念のもと、昭和28年(1953)に特殊法人「琉球育英会」として発足し、様々な変遷を辿りながら平成25年度(2013)に公益財団法人沖

縄県国際交流・人材育成財団として新たな一歩を踏み出しました。平成26年度(2014)から「中期経営計画」をスタートさせ、ミッションとして「沖縄県の教育・文化の振興及び産業発展に寄与するための国際性豊かな人材の育成と国際交流・協力の拠点形成を図り、多様な国際交流活動を展開し、多文化共生社会に向けた活力ある沖縄の実現を目指す」ことを具現化する左記の4大事業を推進する組織体制を横断的に構築して展開中です。

○奨学事業では「滞納額の全体的・効率的な回収体制の確立」、○留学事業では「既存の留学事業並びに独自の留学事業の開発」、○語学事業では「既存の語学事業並びに独自の語学事業の開発」、○国際交流・協力

事業では「既存の国際交流事業等並びに独自の国際交流事業等更に世界的規模のウチナーネットワークの開発」等があります。

現在、外部の有識者をお迎え、特別委員会(中期経営計画検証委員会)並びに語学教育推進連絡協議会)を立ち上げ、P D C Aサイクルの視点でこれまでの検証と今後の展望等について財団全職員で鋭意取り組んでいる所であり、引き続きご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

最後に、沖縄県工業連合会と会員の皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げますとともにコミュニケーションの架け橋として「工連ニュース」の更なるご愛読をお願いいたします。



# ちばりよ〜県産品

## 有限会社うっちゃん沖縄

●本社／那覇市与儀213-2  
TEL 098-831-6986・FAX 098-831-8986  
<http://www.ucchin-okinawa.com/>



### 健康への思い次世代に繋ぐ

ウコン（うっちゃん）の粒や粉末を中心に、ゴーヤーやグアバ、クワンソウ等の沖縄県産素材を使用した健康食品を扱う、うっちゃん沖縄。沖縄県産にこだわり、沖縄県北部のやんばる地方で栽培されたウコンを使用。契約農家より仕入れた農薬不使用の原料を低温でじっくり乾燥させ、有効成分を損なうことなく健康食品として加工しています。

平成6年の創業以来、沖縄の素材を活用した健康推進に務めてきました。現在ほどウコンの知名度が高くなかった当時、いち早くウコンの効能に着目し、加工・販売をはじめています。

現在は、浄化、防腐、抗ウイルス、抗菌、抗炎症、殺菌、解熱、血行促進、血圧降下といった効能を持つユーカリやメチル化カテキンが豊富でアレルギー、花粉症などに良い、べにふうき緑茶、また、ブレンド茶等の加工品開発に力を入れていきます。

昨年、創業者である平良眞順氏が一線から退き、仲村一文氏を新代表とした新体制がスタート。これまでの歴史とポリシーを大切に守りながら、新しい挑戦にも意欲を燃やしています。

「もともと健康食品とはまったく異なる職に就いており、ウコンやゴーヤーが健康によいことはもちろん知ってはいるものの、成分や効能などの知識はほとんどない状態でのスタートでした。はじめのうちは不安もありましたが、前社長の熱い思いにうたれ、うっちゃん沖縄が築いてきた健康への取り組みと商品づくりのノウハウを次代に繋いでいくためにできることがあるならと後を継がせていただきました」

スタッフとともに少しずつ商品の特徴や素材の効能を学んでいき、現在ではほぼすべての商品についての詳細な知識が頭に入っているという仲村氏。今後も沖縄県産にこだわり、ていねいな商品づくりで県民の健康に寄与していきたいと話します。

また、県内外で開催される催事等にも積極的に参加し、これまで以上に商品の魅力をPRしていきたいとしています。現在は他社に外注している作業工程も将来的にはすべて自社で賄えるような設備投資も検討中とのことで、今後さらなる進展を見せそうです。

「前社長が起業したきっかけは、ガ

ンを患った父親がウコンを飲みはじめたことだったといえます。私自身、母や義母が体を壊したときにウコンやグアバのお茶を飲んでいたこともあり、安全でより自然に近い健康食品をもっと広めていきたいという強い思いを持っています。まだまだ勉強の途中ですが、少しでも多くの方々に沖縄県産食品・薬草の魅力を知っていただけるよう邁進していきたいと思っています」



写真上：沖縄の野草に特化した製品はバリエーションもさまざまにあり、県外でも人気



写真右：(有) うっちゃん沖縄 代表取締役 仲村一文氏

# 伝統ある沖縄のシママースを世界へ



株式会社 青い海  
代表取締役社長 又吉元栄



様々な「食のニーズ」に応えられるよう、自然の素材を充分に活かしながら、バリエーションも豊富に数多くの製品が生み出されています。



創業当時から変わらない  
沖縄海水へのこだわり

沖縄県内初の塩製造メーカーとして知られる株式会社青い海の創業は昭和48年。米軍統治下であり、日本国内の専売法外にあった沖縄にも日本復帰後、塩の専売法が適用されることとなり、政府が認定した企業のみ製塩・販売が許され、それまで沖縄県内で伝統的に行われてきた塩づくりは廃止を余儀なくされました。

日本国内から塩田が姿を消していく中、株式会社青い海の創始者である故・知念隆一氏は、塩田と塩づくりの歴史を守るため、地元沖縄市を中心に県民の支持を得て「沖縄の青い海とマース(島の真塩)を守る会」を結成。昔ながらの沖縄の塩「真塩(マース)」存続に意欲を燃やしました。

多数の制約に縛られながらも、メキシコやオーストラリアから輸入された天日塩を沖縄の海水で溶かして平釜で焚いて結晶させる等、様々な工夫を凝らし、マース本来の味を再現することに没頭。昭和49年には政府公認の上で沖縄県第1号の塩「マース」復活を達成しています。

「100%沖縄の海水を使って塩を作りたい」という強い思いがあったのでしょうか。粉砕も立釜も海水使用も許されないという厳しい制限の下で挑戦を続けるのは大変な苦勞であったと聞きます。現在代表取締役を務める又吉元栄氏は話します。

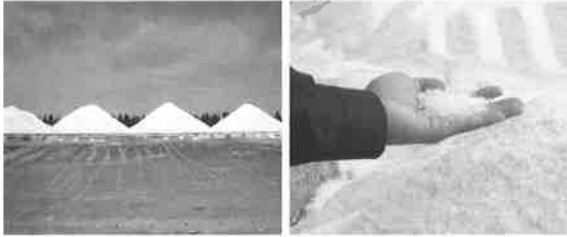
平成9年に塩の専売制が終焉を迎え、平成14年には海水100%の製塩・販売も自由となりました。専売制廃止と完全自由



ニヌファアジ(北極星)とは、航海の時、船の進むべき方向を照らし、教える重要な星ということ、「世の中の目標となる星になりなさい。」という意味を持つ沖繩のことばです。



糸満市の沖合から汲み上げた海水は、巨大平釜で焚きあげられます。



創業当時から続くノウハウを活かしながら製造されています。



機械だけに頼らず、熟練スタッフによる厳しいチェックのもと、安心・安全な商品づくりをお届けしています。

## 株式会社 青い海

業 種 食塩、にがり、混合香辛料、砂糖、の食料品製造、販売  
 設 立 昭和49年2月2日  
 代 表 者 又吉 元栄  
 住所・連絡先 沖縄県糸満市西崎町4丁目5番地の4  
 TEL:098-992-1140・FAX:098-994-8464  
 オフィシャル http://www.aoiumi.co.jp/  
 サ イ ト

※「シママース」は、株式会社青い海の登録商標です。

化に伴い、現在では県内30以上の製塩所が150種類以上の塩を作っていますが、株式会社青い海は製塩業のパイオニアとして歴史に名を残しています。

創業から42年が経過し、本社工場を沖縄市から糸満市へと移した現在でも、沖縄海水100%の塩を製造する一方で、創業当時のままの製法にもこだわっています。

糸満市沖合約2000mの地点まで伸ばされたパイプで海水を取水し、原塩を溶かして作った濃縮海水(かん水)を県内最大級の巨大平釜に入れ、蒸気力で焚きあげます。できあがった塩は昔ながらの木箱に入れ、にがりを切り、約3日ほど寝かせます。これらの工程を経て出来上がった塩は熟練スタッフにより品質確認、パッケージ詰めされ、スーパーや小売店へと届けられます。手間を惜しまず、昔ながらの

製法を守ることで、現在でも沖縄の食文化を支えています。

### ブランド力高め 県外・国外へと展開

「法律に翻弄されるばかりでなく、自由化による他社参入、物流経費や原材料高騰等様々な要因によって、経営が行き詰ったこともありましたが、伝統文化を忠実に守り、ブランド力を高めることで困難を乗り越えてきました」と語る又吉氏。

国際標準化機構(ISO)取得により、情報をオープンにし、品質への信頼度を高めることで、自由化以降の混沌とした状況を切り抜けてきました。添加物や着色料等の危険性がクローズアップされ、食の安全を求めるニーズに答えられる、健康食品・自然食品が広く受け入れられるよ

うになった時代の中、ミネラル成分を多く含んだ「シママース」は金額以上に付加価値が高いとして全国的に支持を集めました。生活協同組合連合会や神戸、広島、札幌等、各地のコープによるPB商品を製造し、全国の店舗へと広がっています。

また、沖縄観光資源を広くアピールしたいという思いから、読谷村に観光施設「Gara 青い海」をオープン。塩づくり体験や製塩工場見学等、沖縄の食文化を学べる塩のテーマパークとしてばかりでなく、レストランやマリンスポーツアクティビティ等のサービスを充実させ、毎年多くの観光客が足を運んでいます。近年ではおもにアジア各国からの訪問が多いといえます。

沖縄の塩に対するアジア諸国の関心が高まる中、香港の輸入販売企業「味珍味(香港)有限公司」との共同開発により、香

港スーパー向けの新品「沖縄の塩 島そだち」を昨年12月より輸出を開始し、中国市場開拓も視野に入れ、OEM商品のみならず、自社ブランド商品の輸出促進にもつなげたいとしています。

又吉氏は、「これまでも香港への輸出は行っていました。現地の百貨店で販売される商品は一般的な塩のおよそ10倍の価格であり、限られた富裕層のみに市場が限られるのが実情でした。一般消費者にも手の届きやすい割安な現地ブランド商品開発により、沖縄の塩がより多くの層へと広がっていくことを期待しています」と話し、「グローバルな展開によって製塩業界に限らず沖縄県全体の産業振興につながっていく」と意欲を見せていました。



# 新うちなーむん紹介

## 久米島みそ食品

●本社/沖縄県宜野湾市志真志4-23-14  
TEL 098-898-5753  
<http://kumejimamiso.com/>



# 昔懐かしい祖母の手作り味噌次代へ

宜野湾市に工場を構える久米島みそ。創業は昭和53年。創業者である松堂ヨシさんが自宅で作っていた味噌を近所に分けたところ、その味わい深さが話題となり、「久米島みそ食品」として販売するようになりました。

創業者の孫にあたり代表者を務める松堂辰也氏も幼い頃から祖母の味噌の味に親しんで育っており、創業から40年経つ現在も当時の製法・配合を守り続けています。

「合理化を図るため一部機械化してはいますが、できる限り創業当時のおぼあの味をそのまま伝え続けたいと思っています。大量生産が可能な大手企業の商品と比較するとコストがかかる分、割高かもしれませんが、昔から買ってきたさる方や母娘で買い続けてくださる方も多く、たくさんの方に支えていただいています」

味噌の製造工程の中でも特に重要な麹作りでは、温度や湿度管理に十分気を使いながら4日程かけて丁寧に製菌させます。温度や湿度はその日の季節や天気によっても変動し、熟年の麹も必要になります。一度に1トンもの味噌を仕込むため、気を抜くことは許されず、深夜に工場へ出向いて作業をすることもあるといいます。手間を惜みず、手作業にこだわるからこそ

味わい深く香り高い味噌が仕上がるのです。

「日本人の生活に味噌は欠かすことができません。核家族化や洋食化が進んだ現代では味噌汁のない食卓も増えているようですが、タンパク質やビタミン、酵素、イソフラボンを多く含む味噌汁は生活習慣病の予防にもいいといわれています。久米島みそ食品の味噌は塩分控えめで、米をはじめとする原料もできる限り国産のものにこだわっています。毎朝一杯の味噌汁を飲むことで健康な生活が送れると思いますよ」

創業当時から定番商品の他、最近の食生活や幅広い層のニーズに合わせた新商品開発にも力を入れており、ニンニクや生姜を入れるなど油味噌のバリエーションを増やしていきたいと日々試作品を作り続けています。これまででは家庭用に購入されることが多かった味噌も、沖縄土産として手軽に購入できるサイズや、パッケージを検討中だといいます。

「おぼあの自家製味噌の味をもっと広めたい。若い世代の食事にもっと味噌を取り入れてもらいたい。そんな思いで毎日味噌を作っています」と笑顔を見せました。



久米島みそ食品  
代表者 松堂辰也氏



# 平成26年度 産総研本格研究ワークショップ in 沖縄

平成27年 1月19日(月) 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ



【基調講演】  
味の素(株) 常務執行役員  
研究開発企画部長  
尾道一哉氏



金秀バイオ(株) 研究開発部  
執行役員部長 稲福 桂一郎氏



(独)産総研 環境化学  
技術研究部門長 北本 大氏

事例紹介



北海道情報大学  
医療情報学科 教授 西平 順氏



沖縄県副知事  
安慶田光男氏

来賓



オーピーバイオファクトリー(株)  
代表取締役社長 金本 昭彦氏



(独)産総研 バイオメディカル研究部門  
次世代ゲノム機能グループ長 新家一男氏

総合討論



(独)産総研 理事  
湯元昇氏



内閣府沖縄総合事務局 局長  
河合正保氏

日本最大級の公的公共機関として2001年に創設された産業技術総合研究所(産総研)によるワークショップが開催されました。多様な研究領域において、基礎から実用化まで研究成果の産業化に向けて取り組み、2013年度には世界トップの成果を生み出す研究を担う「特定国立研究開発法人(仮称)の候補にも選ばれた産総研主催によるワークショップとあり、会場となった那覇市の沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハには多くの参加者が足を運びました。

会場にはライフ・テクノロジー、グリーン・テクノロジー等、ものづくりに関連するポスターや製品が展示され、参加者は足を止めて様々なパネルや製品を観察していました。

講演では味の素株式会社常務執行役員研究開発企画部長尾道一哉氏をはじめとする企業関係者が登壇し、産総研での研究によって開発された技術や製品について紹介されました。

味の素株式会社では、創業当時から掲げられている「新価値創造」、「開拓者精神」の理念のもと、発酵製造技術の活用やアミノ酸分析技術の事業化等様々なオーブンイノベーションに取り組んでおり、沖縄発バイオベンチャー企業とも連携しています。

産総研と地元企業との連携事例として、金秀バイオ株式会社、オーピーバイオファクトリー株式会社による



【ごあいさつ】  
(独)産総研理事長  
中鉢良治氏

研究内容の紹介もなされました。

金秀バイオ株式会社では、「ナノサイズ」カプセル化技術を活用した新たな健康食品の開発を進めており、沖縄の素材をナノ化して飲みやすくしたサプリメントを開発しています。

オーピーバイオファクトリー株式会社では、海洋生物資源を利用した医薬品開発等、主に沖縄産海洋生物資源からの生理活性物質の探索と活用をテーマに研究を進めています。

両社にとって、課題の明確化、公的資金の活用、迅速な特許化等、アイデアや技術の商品化において産総研との連携が大きな転機となりました。

産総研中鉢良治理事長は「沖縄は長寿県といわれ、特に健康面に関しては全国の間心も高い。地理的有利性を活かして日本の先頭を走っていたらいい」と話し、参加した県内企業関係者に向け、産総研の積極活用を提案しました。



# 沖縄県でこそ実践できる 「里山資本主義」 ～ 世界に輝くウチナーを地産地消でつくろう ～

2015年1月21日

株式会社 日本総合研究所 調査部 主席研究員  
株式会社 日本政策投資銀行 地域企画部 主任顧問

氏名 澤谷浩介 kosuke@motani.com



## 沖縄県地産地消シンポジウム2015

平成27年1月21日(水) 沖縄県立博物館・美術館



【コーディネーター】  
(株)海邦総研 取締役 伊波貢氏



地域の生産物（主に農産物や水産物）をその地で消費する「地産地消」の意義に対する理解を深め推進することを目的に沖縄県農林水産部によるシンポジウムが開催されました。

株式会社日本総合研究所調査部主席研究員澤谷浩介氏を講師に迎えた基調講演では、「沖縄県でこそ実践できる『里山資本主義』」として、日本各地の市町村を实地調査し、地域特性を生かした活性化を提言してきた観点から、自らが唱える「安心安全のネットワーク作り」を基礎とした里山資本主義をテーマに、沖縄の地理的特徴や豊かな生産物が持つ大きな可能性について論じられました。一方では、利便性を求めるがゆえに安定供給できる県外商品を重宝する消費者、生産者の姿勢に対して問題提起もなされ、参加者にとっては現在沖縄県が抱えるさまざまな課題を改めて見直す良いきっかけとなりました。



【基調講演】  
 (株)日本総合研究所調査部 主席研究員  
 藻谷 浩介氏



【パネリスト】  
 盛岡食材加工協同組合 理事長  
 重石 桂司氏



【パネリスト】  
 ホテルオーシャン 支配人  
 山田 剛司氏



【パネリスト】  
 農業生産法人(有)我那覇畜産 社長  
 我那覇 明氏



【主催者】  
 沖縄県農林水産部 部長  
 山城 毅氏

地産地消の重要性や課題について議論を交わすため行われたパネルディスカッションでは、株式会社海邦総研取締役伊波貢氏がコーディネーターを務め、4人のパネリストがそれぞれの立場から現在の取り組みや問題点などが提起されました。

盛岡食材加工協同組合理事長重石桂司氏は、農林水産省・食品流通局の補助事業である「フードシステム高度化対策事業」として盛岡食材加工協同組合を国内で最初にスタートさせた実績から、生産者、利用者とのコミュニケーションの重要性を訴えました。

IT業界からホテル業界へと転身し、現在ホテルオーシャン総支配人を務める山田剛司氏は、「世界一沖縄料理が豊富なホテル朝食」をコンセプトに、人気店の麺とスープによる沖縄そばや老舗味噌メーカーのドレッシングなど、地元密着の素材を積極的に取り入れています。



農業生産法人有限会社我那覇畜産社長我那覇明氏は、「沖縄には良い食材が豊富にあり、それらの食材を外に出すのではなく消費者に生産地まで足を運んで食べにきてもらうことによって地域活性化にもつながる」との話がありました。

食の専門家が集結しての活発な意見交換は今後の沖縄県の食文化発展、継承、また県民の健康を長期的に守るための食育にも重要なものとなりました。

# CO<sub>2</sub>排出権の もうけ話にはご用心!

- ここ2年でCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）排出権取引のもうけ話によるトラブルが、ご高齢の方を中心に急増しています。
- 悪質な業者は、預かるお金の元本保証がない、複雑でハイリスクな取引を、あたかも損をしないかのように勧誘します。多大な損害を被ることもあるため、知識や経験のない方は絶対に手を出すべきではありません。
- ほとんどの取引は、CO<sub>2</sub>排出権を実際取引せず、環境問題の解決に貢献できません。
- 突然勧誘されても、契約するつもりがなければ、はっきり断りましょう。

以下のような説明をする業者が増えていますが、  
惑わされないようにしてください!



- 環境省の認定を受けた排出権取引業者である。  
⇒環境省ではそのような認定を行っていません。
- 環境省と経済産業省の管理する登録簿（国別登録簿）に口座を開いている。  
⇒日本企業であれば国別登録後に口座を開設することができますが、口座を開設していても排出権を保有しているとは限りません。  
なお、実際に排出権を保有しているかどうか書面で確認することができます。
- 国別登録簿でEUの排出権を取引している。  
⇒国別登録簿では、欧州の排出権を取引することはできません。

少しでも怪しいと思ったら、ご相談を。

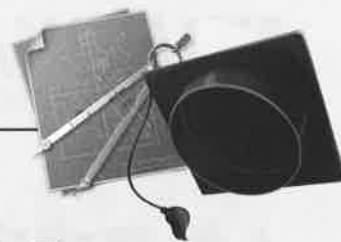
- 消費者ホットライン（お近くの相談窓口をご案内します。）

ゼロ・コー・ナナ・ゼロ 守ろうよ、みんなを

0570-064-370

- 警察相談専用電話

#9110



## キャリア形成支援セミナー開催報告

工学部後援会事務局 堤純一郎・中田幸造

琉球大学工学部後援会は、12月17日(水)(午後13時から16時40分)に後援会会員企業によるキャリア形成支援セミナーを開催しました。今回は従来の就職説明会に代わり、文科省の申合わせに従い学内セミナーの形式となりました。キャリア形成支援セミナーは、工学部1号館横に11月に完成したばかりの「地域創生総合研究棟」を会場とし、3つの業種で区分した各区画では会員企業の皆さまにより、(1)学生から社会人へ変わる心得、(2)業界の職種や業務内容、(3)経済界全体における業界の位置付けや関連業界との関係、(4)学問と実務の関係、(5)これから最終学年を迎える学生への要望や激励、の5項目を中心にご講演頂きました。

本セミナーは工学部後援会として初めての試みでしたが、16社(製造業2社、建設業3社、IT関連5社、その他6社)の会員企業に参加頂き、参加した学生は122名と大盛況のセミナーとなりました。

参加学生へのインタビューでは、「就職に対する心構えができた」「自分が一体何をしたいのかを考える機会となった」「具体的な将来に対するビジョンを考えることができた」「企業で働く人の実際の話を聞くことができて本当にいい機会だった」などの感想があり、学生にとって有益な機会となったようです。

参加した会員企業からは、「もう少し時間が長い方がよい」「隣の講演者の声が気になった」「学生とたくさん触れ合う機会を増やして頂きたい」などのご意見を頂きました。次回セミナーがよりよいものとなるよう検討課題とさせて頂きたいと思っております。今後も皆様のさらなるご指導とご支援をお願い申し上げます。



地域創生総合研究棟



セミナーの様子

お問合せ先

琉球大学工学部後援会事務局(環境建設工学科内)

TEL:098-895-8655・8676 FAX:098-895-8677(堤純一郎・中田幸造)



## 人材育成支援のご案内

事業主団体および構成事業主のみなさまへの  
 人材育成・能力開発のお手伝いをいたします。



### 例えば こんな相談

- ◆段階的・体系的に従業員の人材育成・能力開発を考えたい。
- ◆従業員の新たな能力開発とレベルアップのための研修を受けさせたい。
- ◆将来必要とされる技能・技術についての研修体制を整えたい。
- ◆人材育成・能力開発について様々な疑問に答えてもらいたい。

### 能力開発セミナー

(オーダーメイド型セミナーの場合)

定員10名程度で計画・実施し、事業主および事業主  
 団体との検討により開催日程等を決定します。

### 生涯体系づくり

従業員の能力開発プランづくりから、講師の紹介、  
 機器設備の開放、研究開発その他総合的支援を行いま  
 す。お気軽にご相談ください。

#### ●オーダーメイド型セミナー実施例

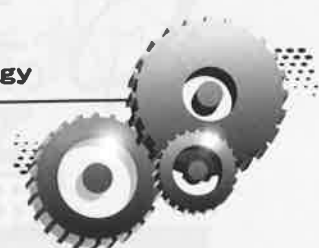
コース No.	コース名	講座内容	訓練 (時間)	定員 (人)	事業主 団体
EK011	センサ回路設計と 対策	自らの仕事の上で抱えている問題点の解決を図り、ものづくりの生産手段や生産工程の効率化・最適化をめざして、センサ信号の取り扱い及びノイズ対策等の回路技術を習得する。	12H	10人	A事業 協同組合
EK181	ロボットで学ぶ 組込システム 設計実装技術	システム開発の効率化・最適化をめざして、再利用可能な開発技術(オブジェクト指向設計手法・派生開発)を用いた、システムを効率的に設計する技術の習得をめざす。	12H	10人	B株式会社
EK341	磁気探査業務 における探査技術 (センサー・アンプ編)	磁気探査業務における磁気探査の構造および特性を習得し、探査現場においての業務(発注者に対する探査機器に関する説明および探査機器の故障判断・メンテナンス等)の改善・効率化に関する業務を遂行し、現場力の強化および技能の継承ができる能力を習得することを目標とする。	12H	10人	C事業協同 組合
EK431	PLCによる 自動化制御装置	自動化設備の効率化を目指して、PLC制御の回路設計技術および稼働ラインのプログラミング保守に係る実務能力を実践的な総合課題を通して習得する。	18H	10人	D協会
MK021	機械設計技術 (開発思考のポイント)	製品及び機会の開発における高付加価値をめざして、直面している技術的な問題の解決に資する製品の開発・設計の進め方及び思考法のポイントを習得する。	12H	10人	株式会社E

#### お問合せ先

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 **沖縄職業能力開発大学校** 援助計画課

〒904-2141 沖縄県沖縄市池原2994-2 TEL.098-934-4810・FAX.098-934-6287

<http://www3.jeed.or.jp/okinawa/college/> ●メルマガ会員募集中 <http://www.jeed.or.jp/merumaga/index.html>



## 平成26年度 琉球大学工学部・沖縄高専学生 研究発表交流会を開催しました

琉球大学工学部と本校は、教育研究推進活動の一環として学生による研究発表交流会を開催しました。本交流会は今回で4回目の開催となり、多数の学生・教員が参加できるよう両キャンパスを会場として行われています。

まず、1月14日(水) 15時～17時に、琉球大学理工学研究科大学院生と工学部学生によるポスター発表19件が本校にて行われました。引き続き、1月15日(木) 15時～17時に本校専攻科生及び本科生によるポスター発表24件が琉球大学工学部にて行われました。両日とも多数の学生・教職員が参加し、活発な質疑応答が交わされる姿がみられるなど、双方にとって実りある交流会となりました。



琉球大学工学部学生の研究発表会  
(本校にて開催)



本校学生の研究発表会  
(本校にて開催)

### 平成26年度 採用教員紹介



わたり まさひろ  
渡利正弘

#### 経歴

- H8.4-H12.3 東京理科大学理工学部数学科卒業
- H12.4-H14.3 埼玉大学大学院理工学研究科数学専攻修了
- H14.4-H18.3 埼玉大学大学院理工学研究科情報数理科学専攻修了
- H18.4-H22.3 東京都立産業技術高等専門学校 非常勤講師
- H19.4-H22.3 埼玉大学理学部 非常勤講師
- H19.4-H22.3 早稲田大学理工学部 非常勤講師
- H20.4-H22.3 東京工業高等専門学校 非常勤講師
- H22.4-H26.3 津山工業高等専門学校 一般科目 講師
- H26.4- 沖縄工業高等専門学校 総合科学科 准教授

#### 研究実績

1. Akihira S, Hazuo Y, Ideta S, Ootani K, Kawamura K, Kojima S, Sako R, Kusachi H, Watari M, The punctual Hilbert schemes of degree two for monomial plane curve singularities, Bulletin of Tsuyama National College of Technology 54, 45-48, (2012)
2. Watari, M: The punctual Hilbert schemes of degree two for monomial curve singularities, Universal Journal of Mathematics and Mathematical Sciences, 3 no.1, 95-104, 2013.
3. 森北出版高専テキストシリーズ「確率統計」, 梅野善雄, 大貫洋介, 古城克也, 佐藤巖, 高田功, 中谷実伸, 長水壽寛, 馬淵雅生, 渡利正弘 (2013年)

#### 役職・学位・担当学科

役職: 准教授  
学位: 博士(理学)  
担当学科: 総合科学科

#### 産学連携のシーズ

- 代数曲線の特異点に関する研究
- 数学に関する一般向け講演

#### お問合せ先

沖縄工業高等専門学校産学連携協力会事務局(担当:喜屋武)

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古905番地

TEL: 0980-50-0133 / FAX: 0980-55-4012 E-mail: sangaku@m1.cosmos.ne.jp



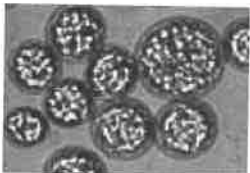
# 海の微生物のちから

～ぼくたちはいいモノを作ってます～

## いいモノって？

皆さんはお魚は好きですか？お魚には、DHAやEPAなどのような、体に良い油が含まれているということを聞いたことがあるでしょう。

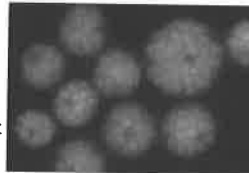
実はこれらの成分は、海の微生物「ラビリンチュラ類」が作っているのです。油を生産したラビリンチュラ類を、動物プランクトンなどが食べ、さらにそれをお魚が食べることにより、DHAやEPAが含まれるようになるというわけです。



ラビリンチュラ類の姿



油を光るように  
処理すると・・・



体いっぱいに油を  
貯め込んでいるのがわかります。

## 縁の下の力持ち

ラビリンチュラ類は、有用な油を作るだけでなく、死骸や排泄物などの有機物や落ち葉などを分解します。生態系においても、重要な役割を果たしています。



### いいモノ、他にも

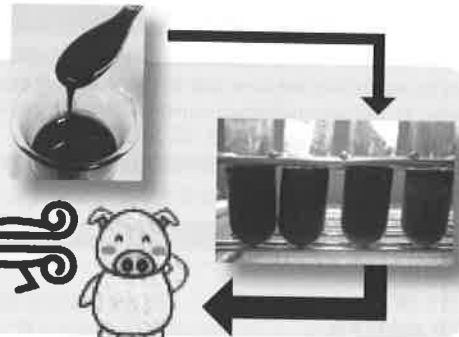
油以外にも、アスタキサンチンという色素を作るものもいます。

## ラビリンチュラ類に食べてもらう

ラビリンチュラ類は海洋や汽水域などに多く分布しています。この中から、生育が良いものや、より油を作る優秀な株を選び出し、未利用の資源、例えば食品製造副産物などを用いて培養します。つまりラビリンチュラ類に、未利用資源を食べてもらい、有用な油に変換するのです。

細胞内に蓄積した油は、酸化しにくいという利点があるため、そのまま水産飼料、家畜飼料へ活用できる可能性があります。

ラビリンチュラ類を活用した有用物質の生産技術は、事業化された事例がほとんどなく、現在も様々な研究が実施されています。工業技術センターでも、沖縄の未利用資源、糖蜜やラム酒製造廃液、豆腐製造廃液などを用いた試験を実施しています。



### お問合せ先

沖縄県工業技術センター 企画管理班(担当:花ヶ崎)

TEL:098-929-0111 FAX:098-929-0115 E-mail:hangskit@pref.okinawa.lg.jp



# 「オグレスビー氏工業功労者賞」 候補者の募集について

## 公益社団法人 沖縄県工業連合会

「オグレスビー氏工業功労者賞」とは、県産業界から「沖縄産業の恩人」として敬慕されている故サムエル・C・オグレスビー氏の功績を記念して、工業功労者表彰を毎年行っています。

これに先立ち、同賞の候補者を広く募集します。

### 1. オグレスビー氏工業功労者賞

沖縄の工業発展に著しく功績のあった者に工業功労者賞を授与する。

例としては

- ① 企業を興し成功した者
- ② 新製品を開発して成功した者
- ③ その経営する企業によって本県経済に大きく貢献した者
- ④ 人格高潔なる者
- ⑤ その他

### 2. 募集期間 平成27年2月2日(月)～2月27日(金)

### 3. 表彰

公益社団法人沖縄県工業連合会 第31回定時総会(6月)の場で行います。

### 4. お問い合わせ

公益社団法人沖縄県工業連合会事務局 TEL.098-859-6191



沖縄産業の恩人  
サムエル・C・オグレスビー  
(1911～1966)

サムエル・C・オグレスビー氏は、1911(明治44)年10月25日、アメリカ合衆国バージニア州で生まれ、1933(昭和8)年、メリーランド大学博士課程を卒業します。

1942(昭和17)年米国陸軍に従軍し、1945(昭和20)年3月には、米陸軍政府将校として来沖し、その後エール大学で極東問題と日本語の研鑽を積みました。

同氏は、1950(昭和25)年3月、第二次世界大戦終焉の激戦地として灰燼と化した沖縄に米国民政府職員として赴任され、沖縄の良き理解者として沖縄の経済、特に工業の振興に献身的に尽くされました。沖縄勤務の16年間、琉球工業連合会(現沖縄県工業連合会)のよきアドバイザーとして深くかわり多くの産業を育てました。

製糖、味噌醤油、食油、ビール、セメント、鉄筋、合板、菓子類に至る各製造業の90%は同氏の後援・指導を受けました。

1963(昭和38)年5月21日に琉球工業連合会は創立10周年を迎え、これを記念して、会員の芳志を募り、オグレスビー氏の胸像を制作することを決定しました。

やがて、胸像が完成し、翌年1964(昭和39)年12月2日、贈呈式と祝賀会が行われました。

その2年後、1966(昭和41)年12月20日、オグレスビー氏が逝去。

「沖縄に埋葬してほしい」との遺言により、泊国際墓地に埋葬されています。



オグレスビー顕彰墓碑

1967(昭和42)年オグレスビー氏の長年の功績を記念して、「オグレスビー氏産業開発基金」が設立されました。

同基金では毎年、沖縄の工業発展に著しく功績のあった方に「オグレスビー氏工業功労者賞」の授与と工業高校・沖縄高専の学生に奨学金を支給しています。



## 地域創生総合研究棟オープン

琉球大学を中心とした総合研究の場として昨年11月に千原キャンパス内に「地域創生総合研究棟」がオープンし、1月26日オープニングセレモニーが開催されました。

新棟の前でテープカットが行われ、大城肇学長をはじめとする研究者や建設関係者による挨拶と各部局の紹介が行われました。

大城学長は新棟について「産学官連携、産業振興、また地域の防災・減災を主要施策に掲げ、様々な研究を重ねていく場となれば」とし、参加者とともに新棟の完成を喜びました。

6階建ての棟には琉球大学工学部の研究室や島嶼防災研究センター、琉球大学との共同研究を進める企業を対象に貸出される研究室・事務所、講演や討論会に利用できる多目的スペースが設けられており、イノベーション創出の場として貴重な役割を果たしていくことが期待されています。



同日、新棟の内覧会もあり多数の参加者が見学しました。

## 公益社団法人沖縄県工業連合会 会員募集のご案内

公益社団法人沖縄県工業連合会は、昭和28年5月に「沖縄県における工業の育成及び振興を図り、もって県経済の発展に寄与する」ことを目的に創立されました。現在では、製造業を中心に約400社の会員を有し、毎年7月の「県産品奨励月間」や「沖縄の産業まつり」などを

とおして、県内製造業並びに関連産業の振興発展に寄与するため鋭意努力しております。本会の主旨に賛同していただける方なら規模の大小は問いませんので、ご入会をお待ちしております。お気軽に事務局までお問合せください。

### 会員への主なサービスならびに特典

- 機関誌「工連ニュース」や電子メール等による各種情報サービスの提供
- 経営者や従業員を対象とした講習会、技術・経営セミナーなどの案内
- 公設試験研究機関との連携による技術力向上に関する事業などへの参加
- 県産品奨励月間事業(7月)における国・県・市町村、食品・建材大口需要者などに対する要請活動への参加
- 「県産品マーク」の取得
- 本会のインターネットホームページによる会員企業の紹介
- 「沖縄の産業まつり」の出展料の優遇
- 従業員表彰制度の活用(優良従業員・創意工夫功労者・優秀技能者)
- (一社)沖縄県発明協会との連携による産業財産権に関する情報提供など



## 会員の皆様へ 「工連ニュース」で自社の商品をアピールしてみませんか？

会員の皆様方には平素より本会機関誌「工連ニュース」の事業活動についてご理解・ご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。

「工連ニュース」では会員サービスの一環として会員の新品などを紹介するコーナーを設けています。事業のPR、新商品の紹介などに積極的にご利用下さい。



●お問合せ先

公益社団法人沖縄県工業連合会 TEL.098-859-6191 担当：座間味



スイッチをつけると

照明が部屋を明るく照らす。

ボタンひとつでテレビがついて、

電子レンジは夕食を温めてくれる。

会社のパソコンが、工場の機械が、

人々の仕事を助け

暗くなると街灯はいつの間にか

夜道をやさしく照らしている。

意識することなく

毎日の暮らしの中にある電気。

その電気を確実に

あなたのもとへ届けること、

それが私たちの仕事です。

毎日の暮らしの中で意識されないこと。

あたり前と感じてもらえること。

今日もスイッチをつければ

何事もなく明かりがつくこと。

それが私たちの誇り。

必要な人、待っている人、その暮らしの中へ

今日も確実に、  
安全に。



地域とともに、地域のために



沖縄電力